

富山県

No.80 2016 年 7 月

中央植物園だより



第 18 回私の植物写真展入選作品「あでやかな美人」 撮影 / 嶋田 明子さん

ゲッカビジン（サボテン科）

メキシコ原産の多肉植物で、花は夜に咲き始め翌朝には閉じます。開花は当日の昼頃にしか判断できないので、6～7月に開催予定の中央植物園「ゲッカビジン観賞」のお知らせも当日午後から行います。

沖縄展「島の恵みー亜熱帯地域の植物資源の活用ーⅠ」を開催します

今年の中央植物園の特別展は7月22日より沖縄展「島の恵みー亜熱帯地域の植物資源の活用ーⅠ」を開催します。本州ではあまりなじみのない亜熱帯地方（沖縄など）の果実や野菜などを展示する予定です。そのプレイベントとして5月13日～25日には「オキナワモズク展」を開催し、生きたオキナワモズクを水槽で展示したほか、オキナワモズクの試食会も開催しました。



展示されたオキナワモズク

第35回ツツジ・シャクナゲ展 開催レポート

今年度より日本ツツジ・シャクナゲ協会富山県支部との共催で、「ツツジ・シャクナゲ展」を開催することになり連休後半の5月3日から5日まで行いました。

今年は3月後半から気温の高い日が続き、多くの植物の開花が例年より1週間以上早くなり、ツツジ・シャクナゲ展でも開花株が揃うか不安がありましたが、200鉢を超える数の出展があり、会場は華やかに彩られました。来年以降も植物園で開催する予定です。



サンライトホール正面のシャクナゲ大鉢の迫力に来園者も思わず見とれてしまう。



オキシシャクナゲ '瑞玉'



会場全体に並べられたツツジやシャクナゲの鉢。

植物園トピックス スイートピーの展示

サクラやボタン・シャクヤクなど春の花が終わった5月下旬、入園口からサンライトホールへ向かう通路に沿って全部で26品種のスイートピーを展示しています。スイートピーはイタリア原産で、日本には明治時代に渡来して栽培され馴染みのある植物です。ここに展示した品種はすべてイギリス産の種子から育成したもので、多くの品種がイギリスで盛んに作出、栽培されてきた歴史が紹介されています。花の色だけでなく、香りも来園者を惹きつけますが、全草有毒で種子もたべられません。



新人職員の紹介

今年の4月から新たな職員が採用されました。栽培展示課の東 義詔（あずま よしつぐ）技師（35歳）です。神奈川県出身で、高山・絶滅危惧植物室を担当します。専門分野は多様性保全学で、これまで岐阜県におけるアザミ属の分布や沖縄県のウミクサの生態について研究してきました。詳しくは下記の研究紹介をご覧ください。



東義詔技師



高山・絶滅危惧植物室での植物管理作業

研究紹介◎『ウミクサについて』

栽培展示課技師 東 義詔

海藻 (seaweed) と海草 (seagrass) は、同じものではありません。どちらも音読み時に「かいそう」と読めるためか、しばしば混同されてきました。前者は隠花植物であり、後者は顕花植物です。全く意味の異なる両者を明瞭に区別するために、海草（読み：うみくさ）をカタカナで「ウミクサ」と表記していきます。ちなみに海藻（読み：かいそう）は、コンブやワカメといった藻類です。

海中を主な生育場所にするウミクサは、全てが単子葉植物で、日本においては30分類群ほど認識されています。またその大半は、海底の砂地や泥地に群落を形成します。それらの群落は通常、複数の種によって形成され、「ウミクサ藻場」と呼ばれています。ウミクサ藻場は、沿岸部における多種多様な生物の重要な生息場所となっており、それらが育つ海のゆりかごと例えられています。

浅海域に生育するというウミクサの特性から、その生態的特徴は相互に類似しています。特にウミクサの有性繁殖様式は、陸上の植物にはない独特の様相を示し、海水や潮の干満を利用した特殊な送粉様式を確立しています。一般的な陸生

植物は、大気中に花を咲かせ、有性繁殖における送受粉に昆虫や鳥、さらに風を利用します。それに対してウミクサは海中もしくは海水面で開花を行います。そして、花粉や雄花そのものを海中に放出することで、同種の雌花柱頭へ花粉を送ることを実現しています。つまり、ウミクサの有性生殖器官は、海という特殊な環境で繁殖成功するような送粉様式に進化を遂げてきたと推測されます。そのユニークさゆえ、ウミクサの生殖器官形態や送粉様式は、多くの研究者たちの関心を集めて現在に至っています。

では、富山県には何種ぐらいウミクサが分布しているのでしょうか。いままでの研究によると、アマモ科のアマモ・コアマモ・スゲアマモ、トチカガミ科のウミヒルモの2科4種が確認されています。ですが今後のより詳細な調査や分類の再検討・標本の再同定によって分布種数が変わる可能性があります。また、ウミクサの繁殖生態が富山県下においていつ、どのように起きているのか明らかにするために、野外調査を行っていく予定です。



光合成が盛んなリュウキュウアマモ群落（沖縄県西表島）



ウミクサ調査の様子。

入園口前の表示をリニューアル

今年の4月から入園口の案内表示をリニューアルしました。これまで駐車場から来ると「入園口の場所がわかりにくい」、「券売機の場所がわからない」といった意見が多数寄せられていました。そこで、目立つ色で大きな文字のサインを新たに設置しました。さらに、近年多くなってきた海外からの来園者にもわかるように、英語と中国語でも表記しました。早速、入園された方から「前回買う場所がわからなかったが、今日はわかりやすかった」、「よく目立ち、色もよい」というご意見をいただきましたが、一方でリピーターの方からは「大きすぎて気づかなかった」、「色が派手」といった感想もありました。

また、4月から満70才以上の方が無料で入園できるようになったことから、そのことを告知する立て看板も新たに設置しました。



催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール
企画展には入園料が必要です。

夏のラン展

7月9日(土)・10日(日)
(ただし9日は13時から)

沖縄展「島の恵みー亜熱帯地域の植物資源の活用ーⅠ」

7月22日(金)～9月25日(日)

オックスフォード大学植物園交流記念展(仮題)

9月30日(金)～10月19日(水)

野鳥と緑の写真展

9月30日(金)～10月19日(水)

私の植物写真展

10月21日(金)～11月16日(水)

■夏休み子ども企画

森のクラフト

7月22日(金)～8月31日(水)

オオオニバスに乗ってみよう

8月5日(金)～8月7日(日)

各日とも9:00～11:00

13:00～15:00に整理券配布
先着各100名

■早朝開園

ハスの花の観賞会

7月23日(土)・24日(日)

6:00～

入園料 500円(6時以降通常開園)

■夜間開園

ゲッカビジン観賞

～7月18日までの開花日2日間

(開花状況により変更することがあります)

19:00～21:30

夜間入園料 250円

オオオニバス観賞会

8月19日(金)～8月20日(土)

18:30～21:00

夜間入園料 250円

■講座・講習会

★染色体観察法 ◆要申込

8月3日(水)

13:30～16:00

内容：ソラマメやネギの発芽種子を用いて、染色体の観察法を実習します。

■月例行事

月例行事には入園料が必要です。

植物ガイド

ーボランティアと歩く植物園ー

第1,2,4日曜日 13:30～14:00

ー園長と歩く植物園ー

第3日曜日 13:30～14:00

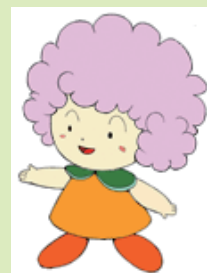
集合場所／サンライトホール

緑のコンサート

9月3日(土)、10月1日(土)、
14:00～15:00

◆要申込 事前の申込が必要です。
申込は1ヶ月前から往復はがき、FAX、メール(botanic@bgty.org)で受付けます。

★印は植物園ボランティアの養成講座です



富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日

(4月中とGW、お盆、祝日の場合は開園)
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円
団体料金(20名以上) 400円
高校生以下ならびに70歳以上通年無料
冬期入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 300円
団体料金(20名以上) 240円
高校生以下ならびに70歳以上通年無料
年間パスポート(購入日より1年間有効) 2,000円

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ経由萩の島循環」または「ファボーレ経由速星行き(休日のみ)」に乗り「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分／富山市中心部より車で約15分／北陸自動車道富山インターより車で約15分／JR速星駅より車で約8分